

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望等を統計的手法によつて的確に把握し、市政運営の有効な手段とする。

### 2. 調査の設計

- |              |                                   |
|--------------|-----------------------------------|
| (1) 調査地域     | 相模原市全域                            |
| (2) 調査対象     | 相模原市在住の 20 歳以上の男女個人               |
| (3) 標本数      | 3,000 人                           |
| (4) 抽出方法     | 住民基本台帳からの等間隔系統抽出                  |
| (5) 調査方法     | 郵送調査法（郵送に準じた配付－郵送回収、はがきによる督促 1 回） |
| (6) 調査期間     | 平成 28 年 5 月 26 日～6 月 16 日         |
| (7) 調査機関     | 株式会社エスピー研                         |
| (8) 有効回収数（率） | 1,587（52.9%）                      |

### 3. 調査の内容

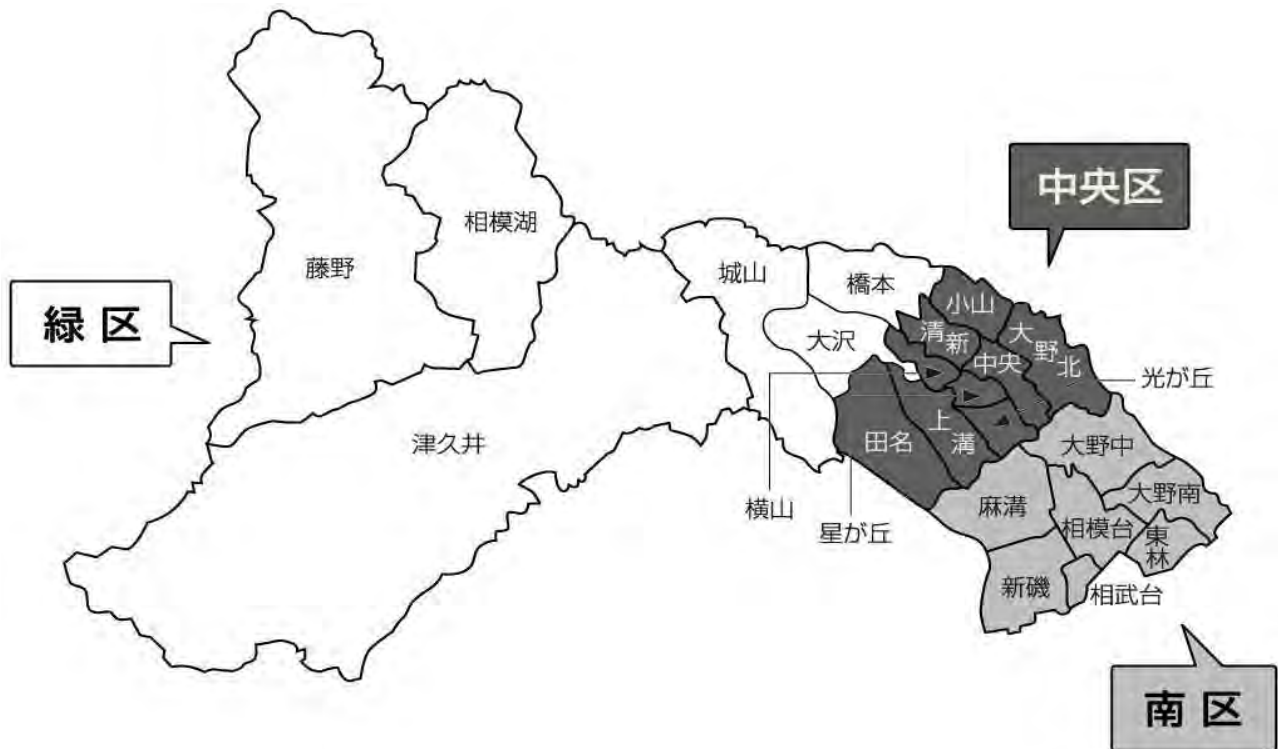
平成 28 年度 市政に関する世論調査は、10 の項目について調査した。

調査項目	設問番号
1 市や区に対する愛着や定住意識について	問 1～問 4
2 相模原市のイメージについて	問 5～問 6－1
3 淵野辺公園拡張整備について	問 7～問 8
4 土木施設へのネーミングライツ導入について	問 9～問 10
5 歩道橋のあり方について	問 11～問 11－2
6 空き家問題について	問 12～問 13－2
7 自転車の安全利用について	問 14～問 18
8 図書館サービスについて	問 19～問 22－1
9 スポーツの観戦や支援について	問 23～問 24
10 情報化推進施策について	問 25～問 28
基本属性（年齢、居住地等）	F 1～F 8

### 4. 区別

地 域	地区（対象住所）
1 緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区、相模湖地区、藤野地区
2 中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3 南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

5. 区別・地区別回収状況



区	地区名	標本数	回収数	回収率
緑区	橋本	300	169	56.3%
	大沢	137	67	48.9%
	城山	98	56	57.1%
	津久井	114	73	64.0%
	相模湖	35	18	51.4%
	藤野	38	18	47.4%
	<b>緑区計</b>	<b>722</b>	<b>401</b>	<b>55.5%</b>
中央区	小山	87	35	40.2%
	清新	126	46	36.5%
	横山	61	29	47.5%
	中央	154	135	87.7%
	星が丘	74	27	36.5%
	光が丘	114	53	46.5%
	大野北	245	111	45.3%
	田名	127	65	51.2%
	上溝	136	71	52.2%
	<b>中央区計</b>	<b>1,124</b>	<b>572</b>	<b>50.9%</b>
南区	大野中	260	119	45.8%
	大野南	315	192	61.0%
	麻溝	70	35	50.0%
	新磯	56	33	58.9%
	相模台	197	85	43.1%
	相武台	86	48	55.8%
	東林	170	76	44.7%
<b>南区計</b>	<b>1,154</b>	<b>588</b>	<b>51.0%</b>	
地区不明		0	26	-
<b>合計</b>		<b>3,000</b>	<b>1,587</b>	<b>52.9%</b>

## 6. 集計結果を見る上での注意事項

- (1) 表、グラフのnまたは、( )内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてnを基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
- (3) 回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は100%を超える場合がある。
- (4) 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が1,587である回答が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.51以内(47.49%～52.51%)とみることができる。

## &lt;標準誤差の表&gt;

回答比率 回答者数	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,587	±1.51	±2.01	±2.30	±2.46	±2.51

$$\text{※標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{回答比率} (1 - \text{回答比率})}{\text{回答者数}}}$$

※標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、すべての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。